

ジャマーが多く設置される

susan12

wifi ジャマーシステム

最近の車泥棒は、[GPS妨害機](#)を使う。盗難車の追跡サービスに位置情報を報告する信号をかき消してしまうのだ。他にもさまざまな不正行為が報告されている。強力な装置である必要はない。衛星信号を受信できないようにするだけであれば、2ワットの電力で十分だ。この技術を用いるのは犯罪者だけではない。会社に車を追跡されている従業員も、記録不能にするために使用している。また、妨害装置が持つ危険性は他にもある。20ワット規模の装置が1つあれば、民間機の空港を妨害できるという恐ろしい可能性があるのだ。GPSに偽の信号が送られる可能性もあり、そちらの方がただの妨害より見抜くのが難しい。

電波の強弱によるが近隣近所の店・WiFiスポット・事務所・飲食店・家・近くに停車しているクルマ・タクシーなど・歩行者にも悪影響は出るのである。電波が遮断されて携帯電話が使えない・着信しない・無線が使えないなどの支障が出て連絡が妨害・阻害される。無線LANに支障が出てパソコンやタブレット・スマホが繋がらないアクセスが異常に遅くWiFi・Bluetooth機器が不調になり機能不全に陥るなどの悪影響が出るだろう。

この間、東京のとある劇場へ行ったときのこと。携帯電話の電源をお切りください」とアナウンスが流れ、携帯の電源を切ろうと思い、ふと携帯の電波を見ると圏外になっていました。それもそのはず、[ジャマー](#)が多く設置されてきているからです。劇場内に仕掛けがあり、あえて“圏外”を作り出しているのです。エリア内の携帯電話の電波をあえて“圏外”にさせる装置で、この数年、大型の劇場やコンサート・ホールが相次いで導入しています。しかしこの装置からは、携帯電話抑止装置のエリア内にある携帯電話機へ、基地局から送られるハズの制御情報は入っておらず、携帯電話機は状況を理解できずにとりあえず“圏外”と判断するのです。つまりは、携帯電話を強引に圏外にしてしまう装置なんです。電波の状況を改善するということはあっても、空のデータを送って圏外にしているなんて、とても面白い発想ですね。



試験という制度が始まったと同時に発生したと思われませんが、電子的な通信手段の急激な発達により、益々手段が多様化しているようです。携帯電話が使えないようにジャミングを発信するという対策を取る場合もある。かなり以前から合法的な[携帯電話ジャマー](#)も使用されています。通話抑止装置は、微弱出力であっても総務省への申請が必要となっており、利用の認可を得た。通話抑止装置の導入について同行では「対象エリアは狭いが、それでも“通話できない”というのはユーザーの利便性を損なう。利便性と犯罪抑止効果のバランスをどうとるか、大きな問題だったが、その結果、圏外とする範囲を2m程度にとどめることにした。

電話の普及率は75%以上にものぼり、これに伴ってユーザーのマナーの問題が表面化し、各種トラブルが発生しています。電子、医療機器の誤作動、電車内、劇場等での音害などが社会的な問題としてクローズアップされています。[wifi ジャマー](#)システムは、この携帯基地局からの報知情報の電波と同じ周波数の微弱な電波を出すことにより、通信をブロックし、その後の位置登録、ポーリングを不可能にするため、携帯端末の表示は“圏外”となり、通信が抑止されます。携帯電話抑止装置についてスタジオトーク。現在、劇場のほか、病院、ATM、大学の試験場などに設置されていると説明。